



平成30年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年3月13日

上場会社名 株式会社ジャパンミート 上場取引所 東
 コード番号 3539 URL http://www.japanmeat.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 境 正博
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 杉山 洋子 (TEL) 03 (6453) 6810
 四半期報告書提出予定日 平成30年3月14日 配当支払開始予定日 平成30年4月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第2四半期の連結業績(平成29年8月1日～平成30年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第2四半期	55,311	6.6	2,528	6.0	2,579	5.4	1,527	7.1
29年7月期第2四半期	51,879	5.4	2,385	0.1	2,447	0.5	1,425	△11.4

(注) 包括利益 30年7月期第2四半期 1,583百万円(4.1%) 29年7月期第2四半期 1,521百万円(△3.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第2四半期	57.35	—
29年7月期第2四半期	53.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年7月期第2四半期	37,628	22,964	61.0
29年7月期	37,945	21,647	57.0

(参考) 自己資本 30年7月期第2四半期 22,964百万円 29年7月期 21,647百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	—	10.00	—	10.00	20.00
30年7月期	—	10.00	—	—	—
30年7月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年7月期の連結業績予想(平成29年8月1日～平成30年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,647	5.7	4,180	5.8	4,242	3.8	2,270	△15.1	85.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年7月期2Q	26,679,500株	29年7月期	26,679,500株
② 期末自己株式数	30年7月期2Q	42,767株	29年7月期	42,767株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年7月期2Q	26,636,733株	29年7月期2Q	26,679,500株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

(業績の状況)

当第2四半期連結累計期間(平成29年8月1日～平成30年1月31日)における我が国経済は、海外経済の回復と為替相場の安定により輸出や生産活動が底堅く推移する中、堅調な雇用・所得情勢を背景に消費も緩やかに回復しておりますが、生鮮食品をはじめとした食品全般は家計の節約志向、低価格志向が未だ根強いことからデフレマイルドの脱却には至らず、食品の消費者物価は弱めの動きとなっております。

食品小売業界におきましては、このような情勢に人口の減少や少子高齢化によるマーケット全体の規模縮小の恐れ、人手不足による人件費の上昇といった状況が加わった上に、ネット通販の多様化や食品宅配事業に参入する企業が年々増加し競争が激化するなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様の暮らしの基本である食を通して、安心・安全を守り、値頃感がある商品展開をすすめ、変化に富んだ店づくりをすることで、さらなるご支持をいただけるような店舗運営に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業において前連結会計年度に出店した5店舗及び前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの寄与等があり、売上高55,311百万円と前年同四半期に比べ3,432百万円(6.6%)の増収となりました。

スーパーマーケット事業において年間最大の繁忙期である年末商戦が好調に推移したことに加え、前連結会計年度に出店した5店舗の採算が徐々に改善していることにより、営業利益は2,528百万円と前年同四半期に比べ143百万円(6.0%)の増益、経常利益は2,579百万円と前年同四半期に比べ131百万円(5.4%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,527百万円と前年同四半期に比べ101百万円(7.1%)の増益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は、次のとおりであります。

① スーパーマーケット事業

スーパーマーケット事業につきましては、大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」、関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、北関東で展開する地域密着型店舗「パワーマーケット」、東京都内を中心に展開する業務用スーパー「肉のハナマサ」を展開しております。

いずれの店舗におきましても、来店される顧客が楽しんでお買い物ができる店づくりを目指し、当社グループの強みでもある精肉部門を中心とした生鮮各部門及び一般食品から惣菜にいたるまで、それぞれの部門が商品力・技術力に磨きをかけ、顧客のニーズにあった値頃感のある商品展開をすすめ、より安心・安全な商品を提供できるよう、努めてまいりました。

商品の販売につきましては、特定の商品を大量に陳列し、値頃感がある商品を顧客へアピールをすることで購買意欲を高める「異常値販売」を定期的実施するほか、グループ各社で開発した商品を共有し販売を行うことで、販売点数及び商品の仕入力の向上、採算の安定に繋がるよう努めてまいりました。

また、当社の加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工、商品供給を行うことで店舗オペレーションを安定的にサポートするほか、店舗内においても必要に応じて精肉加工を行い、売れ筋に対応した商品の速やかな提供により販売機会のロスを削減するなど、戦略的、効率的な販売に努めております。現在、加工物流センターで生産、加工された商品は「ジャパンミート生鮮館」、「ジャパンミート卸売市場」、「パワーマーケット」業態の精肉部門の売上高約6割を担っており、「肉のハナマサ」においても売れ筋に特化した商品の供給を行っております。商品の仕入につきましては、加工物流センターにおける大量備蓄機能を活用することで、食材価格変動、為替変動の影響を受けにくい商品仕入体制を構築し、採算の安定と商品在庫の確保を図っております。

当第2四半期連結累計期間の店舗の状況は、平成29年11月に「肉のハナマサ」錦糸町店の改装を行いました。また、平成29年9月に「肉のハナマサ」金沢店(神奈川県横浜市)が賃貸借契約期間満了に伴い閉店いたしました。これにより当第2四半期連結累計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は79店舗となりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、前連結会計年度に新規出店した5店舗の売上寄与と前期出店店舗の採算が徐々に改善していることに加え、年間最大の繁忙期である年末商戦が好調に推移したことにより、53,320百万円と前年同四半期に比べ2,390百万円(4.7%)の増収、セグメント利益(営業利益)は2,390百万円と前年同四半期と比べて132百万円(5.9%)の増益となりました。

② その他

その他につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業で構成されております。

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。当第2四半期連結累計期間におきましても、得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供できるよう努めてまいりました。また、おいしい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の外食事業の店舗の状況は、平成29年11月に「焼肉や漫遊亭」水戸50号店の改装を行いました。

イベント関連事業につきましては、平成29年2月に連結子会社化した(株)AATJ(株)において「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベントの制作、運営などイベント関連事業を行っております。当第2四半期連結累計期間における活動状況といたしまして、平成29年8月に「肉フェスNIIGATA2017」(新潟県新潟市)、「肉フェス大阪泉州夏祭り2017」(大阪府泉南市)、9月に「肉フェスTOKYO2017秋」(東京都世田谷区)、「肉フェスOSAKA2017」(大阪府大阪市東住吉区)、「餃子フェスSENDAI」(宮城県仙台市宮城野区)、10月に「餃子フェス×熊本県民テレビ夢まちランド」(熊本県熊本市)、11月に「餃子フェス国営昭和記念公園2017」(東京都立川市)、平成30年1月に「スーパープレミアム肉フェス2018」(大阪府大阪市西区)を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を国内外に発信する取り組みを行ってまいります。

アウトソーシング事業につきましては、平成29年4月に連結子会社化した(株)アクティブマーケティングシステムにおいて、スーパーマーケット業界におけるレジ業務の受託をコアビジネスとしたアウトソーシング事業を行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える質の高いサービスを提供しております。当社におきましては、スーパーマーケット事業の「ジャパンミート生鮮館」、「ジャパンミート卸売市場」、「パワーmarkt」においてレジ業務を(株)アクティブマーケティングシステムに委託しております。レジ業務のプロフェッショナルとして新規顧客開拓を行い、業容の拡大に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの売上寄与のほか、前年度に引き続き外食事業の売上高が好調に推移した結果、その他事業の売上高は2,868百万円と前年同四半期と比べ1,605百万円(127.2%)の増収、セグメント利益(営業利益)は122百万円と前年同四半期に比べ4百万円(3.8%)の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度と比べ316百万円減少し、37,628百万円となりました。流動資産は125百万円増加し、固定資産は442百万円減少しております。主な要因は、減価償却による有形固定資産の減少によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度と比べ1,633百万円減少し、14,663百万円となりました。主な要因は、買掛金が652百万円、短期借入金が340百万円、長期借入金が467百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度と比べ1,316百万円増加し、22,964百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加額1,261百万円によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、8,306百万円（前年同四半期7,408百万円）となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、2,041百万円（前年同四半期比1254.4%増）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益2,579百万円（前年同四半期比1.2%増）、仕入債務の減少額652百万円（前年同四半期比67.8%減）によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、604百万円（前年同四半期は1,009百万円の減少）となりました。これは、主に定期預金の預入による支出1,966百万円（前年同四半期比68.6%増）、定期預金の払戻による収入1,720百万円（前年同四半期比18.0%増）及び有形固定資産の取得による支出264百万円（前年同四半期比78.2%減）によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、1,243百万円（前年同四半期は500百万円の減少）となりました。これは、主に配当金の支払額266百万円及び短期借入金の純減額340百万円及び長期借入金の返済による支出465百万円（前年同四半期比116.6%増）によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成29年9月13日付発表の「平成29年7月期 決算短信」の記載から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,158	10,598
売掛金	1,170	1,225
たな卸資産	4,089	3,867
その他	1,974	1,827
流動資産合計	17,392	17,517
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,289	7,137
その他(純額)	4,028	3,839
有形固定資産合計	11,317	10,976
無形固定資産		
のれん	3,107	2,898
その他	683	641
無形固定資産合計	3,791	3,540
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,231	4,314
その他	1,240	1,307
貸倒引当金	△28	△28
投資その他の資産合計	5,443	5,593
固定資産合計	20,552	20,110
資産合計	37,945	37,628

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,023	4,371
短期借入金	1,186	846
1年内返済予定の長期借入金	586	587
未払法人税等	886	1,180
賞与引当金	296	320
その他	3,221	2,863
流動負債合計	11,200	10,169
固定負債		
長期借入金	3,355	2,888
退職給付に係る負債	315	337
資産除去債務	445	438
その他	980	830
固定負債合計	5,097	4,494
負債合計	16,297	14,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,350	2,350
利益剰余金	16,904	18,165
自己株式	△45	△45
株主資本合計	21,437	22,699
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	230	285
退職給付に係る調整累計額	△21	△19
その他の包括利益累計額合計	209	265
純資産合計	21,647	22,964
負債純資産合計	37,945	37,628

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
売上高	51,879	55,311
売上原価	36,845	39,726
売上総利益	15,033	15,584
販売費及び一般管理費	12,648	13,055
営業利益	2,385	2,528
営業外収益		
受取ロイヤリティー	33	33
受取手数料	4	4
その他	37	68
営業外収益合計	75	106
営業外費用		
支払利息	10	16
解約手数料	—	21
その他	2	18
営業外費用合計	12	56
経常利益	2,447	2,579
特別利益		
受取補償金	99	—
特別利益合計	99	—
税金等調整前四半期純利益	2,547	2,579
法人税、住民税及び事業税	1,106	1,080
法人税等調整額	15	△28
法人税等合計	1,121	1,051
四半期純利益	1,425	1,527
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,425	1,527

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
四半期純利益	1,425	1,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	54
退職給付に係る調整額	0	1
その他の包括利益合計	95	55
四半期包括利益	1,521	1,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,521	1,583
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年1月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	50,617	1,262	51,879	—	51,879
セグメント間の内部売上高 又は振替高	312	—	312	△312	—
計	50,929	1,262	52,191	△312	51,879
セグメント利益	2,257	118	2,376	9	2,385

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額9百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	53,005	2,306	55,311	—	55,311
セグメント間の内部売上高 又は振替高	315	561	876	△876	—
計	53,320	2,868	56,188	△876	55,311
セグメント利益	2,390	122	2,513	15	2,528

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額15百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。